

平成 30 年度 入学式 学長式辞

例年になく豪雪で、雪との戦いも終わり、ようやく桜のつぼみも開花し、ここ越前万葉の里にも春が訪れてきました。春爛漫の本日、越前市長 奈良 俊幸(としゆき)様 越前市議会議長 前田 一博(かずひろ)様を始めとする多数の御来賓の方々のご臨席をいただき、平成 30 年度 仁愛大学ならびに仁愛大学大学院の入学式を挙行できますことは、本学関係者一同の大きな喜びであります。

人間学部入学生 175 名、3 年次編入生 6 名、人間生活学部 161 名、3 年次編入生 2 名、大学院人間学研究科 7 名、総数 351 名の新たに仁愛大学の学生となられた皆さんご入学まことにおめでとうございます。

また、保護者の方々にも心よりお喜び申し上げます。合わせて、今後の本学の教育・研究・地域連携などの社会活動につきましても、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本学は「仁愛兼濟」を建学精神として、いのちといのちのつながりの不思議さに気づき「感謝」するところを育てることを、基本としています。

今、特に人工知能、A I 技術の発展は目覚ましいものがあります。そして、それらによって利便性の高い生活が予想され、その恩恵は計り知れないものがあります。

しかし、私たちは先の東日本大震災を忘れてはなりません。あの中で気づかされたことは人と人の「絆」、「つながり」でした。

私は、皆さんにお聞きします。自分の命は、自分のものですか。ならば、自分のいのちは思いどおりになるはずです。

私は、つたない半生を振り返って誕生の瞬間から今日まで毎日思いがけないことの連続でした。また、人生というのなら、死も思い通りになるはずです。でも、死は思いがけずやってきます。思い通りにならないものを思い通りにしようとするほど苦しみになります。思い通りにならないものを思い通りにならないと知ることが超える道です。

誕生も死もすべてご縁、つまり縁起の法の中にあるのです。父があり、母があり、祖父母があり、連綿と続くご縁の連続によって生まれ、存在しているのです。

つながっているから涙もでるし、こころも通うのです。このことに気づくことによって開かれる世界が「仁愛兼濟」という世界です。互いに敬愛し、互いに救われていくということです。本学で学ぶ、心理、コミュニケーション、健康栄養、子ども教育すべての学びの根幹にある理念がこの「仁愛兼濟」という精神です。

本学では、「いのちのつながり、支えあうこころ」、すなわち、いのちの尊さを学ぶことにより自分の生きかたが見えてくるのです。人間性が見失われている現代社会だからこそ、心の通い合う社会を目指して「人間」と「いのち」を学ぶのです。皆さんが、幅広い教養と心の通った人間性を身に着け、そのうえで、それぞれの分野の専門家として、高度な知識とスキルを修得して、「美しい世を拓く灯となるために」社会に貢献していただくことを願って

います。

最後になりますが、現在、本学におきましては、教育・研究はもちろん、「地域共創センター」を中心として全学的に地域連携を推進する体制を取っております。特に、学生の皆さんによる活動は、地元越前市、そして福井県からも、大きく期待されているところです。これまでの先輩諸君の活動は、インターネットや新聞・テレビなどのメディアを通して広く伝えられております。これらの活動を通して、多様な人間関係を学び、また、企画力マネジメント能力を養うことができます。これらの成果によって、本学の就職率は全国トップレベルです。

本学は地元地域との関係が密接な大学です。越前市・福井県のご協力に感謝するとともに、諸君の一層のご活躍を願って式辞といたします。

平成 30 年 4 月 3 日

学 長 田代俊孝